

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和2年1月21日

協議会名: 苫小牧市公共交通協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
事業者名: 道南バス(株)	系統名: 樽前予約運行型バス 苫小牧市樽前地区を運行区域とし、地域内幹線系統、市内バス路線、JRとの接続を効率的に行い、利用者の広域的移動を可能とする。	樽前地区の小学校へ通学する児童に対する、市内路線バス定期半額補助(利用促進事業)を継続。 また、利用者満足度の向上を目指し、事業者と接遇や各種対応についての協議や、町内会や小学校と、利用に関する情報交換を適宜行った。	A 事業は計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B ●利用者数 目標: 55人/日 実績: 48人/日 ●満足度 目標: 70% 実績: 94% 満足度については、目標を達成したものの、1日当たりの利用者数については、地域の人口減少や小学校の児童減少などの影響により、目標を達成することができなかった。	・樽前地区の小学校へ通学する児童に対する、市内路線バス定期半額補助(利用促進事業)を継続して実施する。 ・令和元年度に実施したアンケート調査の結果や、町内会、学校等との協議を踏まえ、可能な範囲で運行経路の見直し等を行い、利用者の利便性向上に努め、利用者数の増加を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和2年1月21日

協議会名：	苫小牧市公共交通協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	苫小牧市においては、他都市と同様に自動車依存型のライフスタイル等により、バス利用者は減少の一途を辿っている。 更に郊外部においては、バス運行便数に対し利用者数が著しく少ない路線が存在し、非効率な運行を強いられている状況にある。そうした状況を踏まえ、今後更に人口減少や少子高齢化が進むことが予想されることから、地域の生活の足であるバス路線について廃止などが懸念されている。そうしたことから、将来にわたり交通弱者等の生活の足を確保するための生活交通ネットワークの構築が必要不可欠である。 当該事業を実施している樽前地区では、過去に路線バスの錦西樽前ガロー線と学童輸送用のスクールバスが運行されていたが、路線バス利用者が著しく少なかったことや、スクールバスの運行ルートが路線バスと大部分重複していたことなどにより、路線バスも含めた運行の見直しが必要となっていた。そうしたことを踏まえ、平成23年3月策定の苫小牧市地域公共交通総合連携計画に路線バスとスクールバスを一元化した「デマンド型コミュニティバスの導入」を位置付け、平成24年4月に導入し、現在も運行を維持しているところである。 今後も引き続き、地域公共交通確保維持改善事業の実施により、樽前地区における生活交通手段を確保・維持し、地域住民の通院や買い物などの日常生活の移動や、地域間幹線系統等との接続による広域的な移動などで必要不可欠である住民生活の足を存続させていく必要がある。